

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 国語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の問題内容では、「文法・語句に関する事項」の目標値 65.0%に対して、校内正答率 58.3%だった。 ・村学力調査の問題内容では、「文章を書く」の目標値 58.8%に対して、校内正答率が 58.3%だった。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文法・語句に関する事項」については、令和2年度に当該の授業改善推進プランが策定されていない。 ・「文章を書く」については、令和2年度に当該の授業改善推進プランが策定されていない。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文法・語句に関する事項」では、文法・語句の復習を計画的に行っている。 ・「文章を書く」では、新聞記事を活用して意見文を書いたり交流したりしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①計画的に漢字学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「文法・語句に関する事項」の「単語について理解している」の問題項目と、「文節の関係について理解している」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の「読み取った内容を明確にして書いている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①計画的に漢字学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「文法・語句に関する事項」の「単語について理解している」の問題項目と、「文節の関係について理解している」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の「読み取った内容を明確にして書いている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p>
<p><方策></p> <p>①計画的に漢字学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「文法・語句に関する事項」の「単語について理解している」の問題項目と、「文節の関係について理解している」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の「読み取った内容を明確にして書いている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 社会科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

基本的な知識理解が不足している領域がある。

例1 歴史科「縄文時代～中世の日本 全般」 この時代における問いの正答率が約36%であった。
(令和4年度 小笠原村学力調査の結果 参照)

例2 令和4年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」
「あまりあてはまらない」67% (3名中 2名)

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】資料から情報を読み取り、自分の考えをまとめ表現する。

⇒ 上記した学力調査の結果から、知識理解は不足しているが、活用には長けているという結果が示されている。よって、令和2年度の課題は改善できていると判断する。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

前提として、「『わかる』から『できる』を体感する授業の実現」のためには、まず『わからなくてはいけない』(上記した本校アンケート結果参照)よって、『わかる』ための工夫を以下に記す。

- ①毎授業ごとの自己評価を実施。小項目ごとに理解度を記述させ、指導者から必ずフィードバックを行っている。
- ②知識理解を高めるためにワークブックを利用した反復学習を行っている。なお、その際には丁寧に個別指導を実施し、「わかる」まで指導を行っている。

これらの指導・工夫を継続することで、社会科における基本的な知識理解が得られる(網羅できる)と考える。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①上記 2 (2) ①・②に記した工夫の継続
- ②後期授業評価アンケートの実施

<検証方法>

- ①②に共通して
- ・後期授業評価アンケートの結果分析
(理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%を目指す)

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 理科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和4年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。

- ・「地層」と「水溶液の性質」の正答率が0.0%であり、目標値および全国平均を大きく下回っている。
- ・「地層」について、鍵となる化石について、河口からの距離と粒の大きさについて、標高の違う柱状図の読み取り方など、地層を読み取るための基礎的、基本的な知識・技能に課題がある。
- ・「水溶液の性質」について、質量パーセント濃度の意味、求め方や溶解度曲線の読み取り、問題の中での活用の方法など、水溶液や再結晶に関する基礎的、基本的な知識・技能に課題がある。
- ・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】①条件を制御して実験を組み立てたり顕微鏡などを正しく使ったりして正しく実験を行う。②実験結果からわかることなどを文にして発表したり記述で説明したりする。

【課題に対する具体的な授業改善策】①こうしたらこうなるという原因→結果の関係を、黒板で視覚化して整理しておき、常に意識しながら実験を組み立てられるようにする。また、実験技能の基本をカードやワークシート等を活用して丁寧に指導する。②予想や考察などを文章で記述する機会を増やし、慣れさせる。

【評価】①順序を考えながら実験をしたり考察したりする論理的な考え方ができるようになり、正確な実験への意識、技能が高まった。②言葉や文章で表現することに慣れてきたが、個々の差がある。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行い、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する場面を設ける。
- ・文章で表現させるときは、キーワードを示すなどの支援を個に応じて行い、自分で表現することをまとめられる場面を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行い、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する場面を設ける。
- ②内容のまとめりに、本時の授業のまとめや、問いに対する説明を記入させる時間を設ける。

<検証方法>

- ①内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行う。教科書、市販の教材を用い、正答率の芳しくない問いに対するフィードバックを行う。年15回程度。
- ②授業のまとめの時間に、タブレットPCでまとめや授業中に浮かんだ疑問等を入力する。既習の用語で学んだことを説明できるように、適宜キーワードを示すなど支援し、自分で説明することに慣れさせる。通年で実施し、章や単元ごとにフィードバックし、学習を調整できる機会をつくる。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和4年度、前期の授業評価アンケートを集計し、教科を通して興味・関心を高められているという項目において、Aは67%、Bは33%であった。そして、この教科についてどの程度理解しているかという項目において、Aは34%、Bは33%、Cは33%であった。昨年度と比べても大体同じような割合である。授業の取り組みを見ていると、ワークシートに記入する時点で手が止まってしまう生徒もいる。しかし、何も考えていないわけではなく、時間をかけて、質問の趣旨を砕いて説明すると理解をして言葉で説明することができる。昨年度の授業改善推進プランの評価にもあるが、少人数だからこそその「個に応じた指導」が有効であるが、時間内に自分の思いを表現できるようにすることが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

①基礎的な演奏技能を習得する→演奏の様子を記録し、自身の演奏について評価させる

②既習の社会的知識と結び付けて鑑賞する能力を育む

→他教科の内容と絡めながら鑑賞の授業を行う。地図や年表を用いて視覚的支援をする。

※ただし、小学6年生の時の授業改善プランのため、校種に違いがあり、現在に適した改善プランとはならないところもあるため、(2)では令和2年度の改善プランを参考に、発達段階に合わせた授業改善推進プランを提案する。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

①演奏技法については、「演奏技能を習得するために」とし、歌唱・器楽の分野でタブレット端末を使い、自分の演奏している様子を撮影する。模範例と見比べながら、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な発声や奏法、身体の使い方を客観的に見ることで、教員だけではなく、生徒自身、何ができて何ができていないのかを把握しやすくなる。

②既習の社会的知識と結び付けるだけではなく、生活や社会における音楽の意味や役割を考えた上で音楽のよさを味わいながら鑑賞できるよう、歌唱・器楽・創作と関わらせながら学習していく。特に創作分野では生活に密着した音楽をつくることにより、思いや意図をもって創作するので、より作曲者の立場に立った視点で「わかる」から「できる」にシフトしていくことができる。時間内に自分の思いを表現できるよう、端的な説明文、また、準備の段階で生徒の反応を視野に入れ、見通しを立てた授業計画が必要である。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①年間2回の授業アンケートの実施

②年間3回の定期考査の実施

<検証方法>

①年間2回の授業アンケートの内容分析

②年間3回の定期考査を実施した内容の分析

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・

・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 美術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和4年度前期授業評価アンケートでは、「美術科の学習を通して、この教科への興味・関心を高めることができているか」という項目に関して、83%が「あてはまる」、17%が「だいたいあてはまる」、それ以下該当なしである。また、「この教科の学主内容について、現在どの程度、理解していますか」という項目に関しては、33%が「100～75%」、50%が「75～50%」、17%が「50～25%」、それ以下該当なしである。以上の結果のみならず、授業への興味・関心は高い（ここ3年間の結果より）が、学習内容の確実な定着については、少し課題がみられると思われる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・【課題】①これまで身に付けた造形感覚をより意識化して表現及び鑑賞に取り組む態度を育む。
- 【改善策】①自分で主題を生成して表現する卒業制作に取り組みさせることで、図画工作科ならではの創造的な深い学びの場を設定する。
- 【評価】①これまで図画工作科で学んだことを卒業制作としてまとめ上げることができ、表現及び鑑賞の能力が相互に高まった。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・思考・判断・表現に関する出題において、主題の生成や客観的に作品を批評する見方や考え方（美術科の場合は、感じ方）を定着させていく。
- ・美術科の学習におけるメタ認知能力を高めるために、パフォーマンス課題に取り組みさせることで、主体的な学びを深められるようにしていく。
- ・アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用したポートフォリオの作成等をハイブリット化し、造形的な視点による創造性の涵養を図る。教師にとっては、生徒の学習の軌跡をデータ化し、評価評定に活かし、指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施
- ②年間3回の定期考査の実施

<検証方法>

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②年間3回の定期考査の実施内容の分析

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 保健体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、教科の関心を高められていると感じている生徒が67%いる一方で、内容をあまり理解していないと感じている生徒が33%いる。運動習慣の二極化が進んでおり、内容をあまり理解していないと感じている生徒の背景には、体を動かすことへの抵抗や自分自身の運動技能に十分に自信をもてていないことが課題として挙げられる。 ・新体力テストの結果より、特に筋力と瞬発力に課題が見られた。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基本的な運動技能の習得と体力の向上、②課題の解決に向けて、思考・判断し、他者に伝える力の育成</p> <p>【改善策】①各種目の特性に応じた技能と必要な体力を押さえ、スモールステップで課題を提示し、運動に取り組みさせる。②学習カードやICT機器を活用し、視覚的にわかりやすいようにするとともに、仲間と意見を交換する機会を設け、理解を深めさせる。</p> <p>【評価】①段階的に指導し、基本的な運動技能を定着させることができた。②仲間と協力し、課題を解決することができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し、年間を通して授業の導入部分で実践している。 ・学習カードやICT機器を活用し、運動の観察ポイントに沿って教え合うことができるようにしている。 ・体力の違いや技能に応じて、ルールの緩和を行い、全員がゲームに参加できるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 家庭科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を自身の生活と結び付けて、考えを深められている生徒が少ない。 ・実験や実習には意欲的ではあるが、ミシンの使い方などの技能面で差が出てきてしまう。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を他の題材と関連させながら確認する。また ICT を活用して、写真や動画を提示し、理解を深めさせる。 ・布を用いた製作では用途を設定させ、工夫して製作する時間を充実させる。 <p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と消費生活の題材を関連させ、理解を深めさせることができた。 ・使用目的に合わせて、快適性等の工夫をすることができるようになった。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業の復習として、授業の初めにスライド資料やクイズ形式でまとめ、モニターに提示し、知識の定着を図る。 ・題材の導入やまとめなどには動画を活用し、具体的なイメージをもたせることで自身の生活と結び付けて、理解を深めさせる。 ・実験・実習の際には手本を示したり、動画を活用したりしてイメージをもたせやすくする。また、製作工程の振り返りを、タブレット端末を使用し記録として残し、実生活へ活かせるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <p>①自身の生活と結び付けて考えられるように、身近な題材を扱いながらワークシートに記入させ、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②生徒自身の製作工程や道具の扱い方に対する理解度を知るために、振り返りを記入させ個別に支援を行う。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題，定期考査，授業評価アンケート</p> <p>②課題，定期考査，授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①自身の生活と結び付けて考えられるように、身近な題材を扱いながらワークシートに記入させ、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②生徒自身の製作工程や道具の扱い方に対する理解度を知るために、振り返りを記入させ個別に支援を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題，定期考査，授業評価アンケート</p> <p>②課題，定期考査，授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>①自身の生活と結び付けて考えられるように、身近な題材を扱いながらワークシートに記入させ、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②生徒自身の製作工程や道具の扱い方に対する理解度を知るために、振り返りを記入させ個別に支援を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題，定期考査，授業評価アンケート</p> <p>②課題，定期考査，授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 英語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和4年度村学力調査では、「さまざまな英文の読み取り」において正答率33%、「情報に基づいて書く英作文」において正答率22%と、全国平均を大きく下回っている。このことから、「日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る」力（『学習指導要領』2-2(3)①ウ(イ)）および「日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く」力（同2-2(3)①カ(ウ)）に課題がみられると考えられる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・【改善策】学習のねらいを明確にした上で、新出単語・新出文法を、ワーク等を活用し、繰り返し練習させる。
- ・【評価】単語や文法事項を繰り返し練習させることができた。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・『学習指導要領』2-2(3)①ウ(イ)および同2-2(3)①カ(ウ)の力を伸ばすために必要な語句について、授業内で生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習など、複数の方法で学ぶ機会を設ける。
- ・生徒とのやり取りを通して文章を読む目的を示した上で、文章の読み取りを行うための個別学習の時間を設ける。
- ・聞いたり読んだりしたことをもとに、相手に合った提案を書くなど、技能統合的な活動を取り入れる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①学習した語句を確実に身に付けられるよう、教科書1セクションごとに小テストを行う。
- ②表現活動を行う前に、既習の語句や文法のうち、活用できそうなものを全体で確認する。

<検証方法>

- ① 1セクションごとの小テスト
- ② 各単元末の作文、年4回の定期考査

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】